

# 令和3年度（2021年度） 日貫保育所拠点事業報告

## 《日貫保育所》

### I. 事業総括

#### 《保育方針》

- 一人ひとりの子どもの育ちを支えるように努めました。  
(現在をもっともよく生き望ましい力の基礎を培うことを目指しました)
- 保護者の子育てを支えるよう努めました。  
(保護者の意向を受け止め、子どもと保護者の安定した関係に配慮し援助することを目指しました)
- 子どもと子育てにやさしい地域を作るよう努めました。  
(地域とのふれあいや連携を図ることを目指しました)

### II. 事業目標に対する評価

#### 1. 利用者サービスの充実

KGI (重要最終目標指標)	指標の名称	指標値	実績
	非認知的能力の育成	—	—

保育所保育指針に基づき、子ども達が将来、社会の中で自分らしく生きていくことが出来るよう保育を進めてきました。これまでの「健康」「人間関係」「環境」「言語」「表現」の各領域に沿って、発達に応じたかかわりを行い、養護と教育を一体的に展開してきました。子ども達が安心して過ごせるよう、愛情ある関わりの中で自己肯定感が培われるような言葉かけや支援を心かけました。また、指針に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」を最終目標として捉え、計画に沿って進めてきました。ただし、非認知能力は本来、日常の保育を通じて育まれるもので、数値化し難い能力であるため、目標値は示しません。

#### 2. 地域社会との関係性強化

KGI (重要最終目標指標)	指標の名称	指標値	実績
	地域社会との関係性強化	—	—

地域に育まれる保育所として、地域の方々との交流を深め、保育所でなければ体験できない貴重な経験の場を子どもたちに提供していこうと考えておりましたが、新型コロナウイルスの感染により、控えることを余儀なくされました。その中でも、コロナの段階が低くなった際、地域の方々に気に掛けていた

だき、改めて保育所と地域の連携の必要性を感じました。数値は掲げておりませんが、コロナ終息を待ち、地域との行事により、文化や伝統を知り体験することの大切さを引き続き取り組んでいきたいと思いをします。

### 3. 生産性の向上

KGI（最重要目標指標）	指標の名称	指標値	実績
	人時生産性	2.20 千円	2.59 千円
	労働生産性	4,180 千円	4,557 千円

付加価値額の実績は計画を上回り、年間の総労働時間も抑えられ、人員体制もほぼ計画どおり維持できたため、人時生産性及び労働生産性は目標値をクリア致しました。

## III. 計画事業の総括

### 1. サービス事業への取り組み

小規模の保育所ですが、職員の連携性を持ち、地域と関わりながら保育所全体で、一人ひとりの子ども達や、その保護者に常に寄り添いながら進めてきました。乳児期の愛着形成の重要な時期に、ゆったりと安心感のある関わりを常に行い、愛情の関わりの中で自己肯定感が培われるような言葉掛けや支援を行いました。また、毎月のように広域入所があり乳児クラスが落ち着かない生活もありましたが、その度に職員間での話し合いを密にし、子どもの過ごしやすい流れを考えてきました。さらに自然ならではの遊びを多く取り入れ、家庭ではできない自然との触れ合いを経験し、豊かな感情、好奇心、思考力、探求心が培われるよう行ってきました。また、新型コロナウイルスの関係により、保育参観等を中止としたため、食への取り組みや普段の保育の様子等を、お便りは勿論、活動の様子を写真や SNS で発信して情報共有しました。

### 2. 人材育成への取り組み

今年度も新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの外部研修が中止となりました。そのため、オンライン研修が増え、オンラインでは多くの職員が同時に視聴することができ、保育の思いを共有できる利点や、ネット配信による研修は配信期間が長く研修計画も立てやすく、この学びを園内研修で他の職員に伝達することができました。事業所間研修でのマネジメント研修では研修に参加することで職員からの相談や困りごとを聞き、職員の様子を見ながら声を掛け、働きやすい環境を整えていけるよう心掛けました。その中でフィードバックミーティングを積極的に取り入れ、絶対ルールを基盤としてお手本となるような姿を見せ、出来ているかのチェックや指導を行いました。普段から職員とのコミュニケーション

ンを取りながら保育所全体が働きやすい環境を整えて行けるようこれからも真摯に取り組んでいこうと思います。

### 3. 地域との関係強化への取組み

地域との繋がりを深め、年間を通して年齢別に活動するという計画を立てていましたが、コロナの関係で地域の高齢者の方との交流（老人会）は中止となりました。地域ボランティアによる読み聞かせや、わらべうたは年2回実施しましたが、3回目は中止となりました。交流は出来ませんでした。職員と園児での活動を多く取り入れてきました。栄養士による自園の畑で育った野菜を使ったクッキングや、色々な媒体（絵本等）を通して食への興味関心を促してきました。保育所で出来る体験を実施し、コロナが落ちつけば地域の方との交流を試み、地域との繋がりを無くさないよう心掛け、来年度は日貫地域や老人会の皆様と交流を深めていきたいと思っています。

### 4. 生産性向上への取組み

少子化を考え、職員数を増やさずにより良い保育を実施していくために ICT 化システムを進めホイスの導入により業務改善を図ることに努めてまいりました。事務作業の効率化を図り、間接的業務時間の減らし、本来である子ども達との直接的な保育時間を確保できるように努めました。

### 5. 施設整備への取組み

事業計画に掲げた施設整備事業は、実施時期がずれ込んだものもありましたが、すべて実施することができました。新型コロナウイルス拡大防止のための補助金を活用し、感染予防のための物品等を購入し感染防止対策に努めました。

令和3年度に実施した個別の事業の詳細及び成果等は以下の通りです。

#### 【サービス事業】

##### 1. 利用者（入所者）状況

###### (1) 利用率・稼働率

定員数	計画数	実績	利用率・稼働 (KPI)
20名	19名	22名	110%

(2) 利用者構成状況

年齢別クラス	計画数	実績数	差異
0歳児	4名	5名	+1名
1歳児	2名	3名	+1名
2歳児	4名	5名	+1名
3歳児	2名	2名	—
4歳児	2名	2名	—
5歳児	5名	5名	—
計	19名	22名	+3名

2. 実施サービス

計画上の事業	実施した内容・成果等
≪養護≫ 生命の保持	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各年齢に応じた環境を整え、発達年齢に適した支援を行いました。乳児期は一人ひとりとの関わりを大事にし、愛着形成の大切な時期であり、0歳児は同じ職員が関わることで安定して生活できるよう配慮しました。0歳児の生活リズムと2歳児の発達段階を踏まえた支援を実施しました。</li> <li>・幼児は一人ひとりの思いを受け止め、生活リズムによる年齢に合った環境を整えました。5歳児は卒園に向けた活動を行い他のクラスは一人ひとりに合った働きかけを行いながら、基本的な生活環境に取り組みました。午睡をしない5歳児と分かれ3,4歳児は乳児と共に安心した環境で身体を休めることができました。コロナ禍にあり幼児にはマスクの着用の依頼をしました。無理のないところで安心安全に使用し生活改善も整えました。</li> </ul>
情緒の安定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児期の愛着形成の重要な時期にゆったりと安心感のある関わりを常に行ってきました。幼児は愛情ある関わりの中で愛されることを感じ取り、自己肯定感が培われるような言葉かけや支援を行いました。</li> <li>・子ども一人ひとりに職員が丁寧に関わることで、新入児も早く生活に慣れ、進級児もスムーズに生活することが出来ました。職員も個別支援の必要な子どもに対して丁寧に対応するよう努めることが出来ました。後半に入所が続きましたが、その都度連携を取り、職員間でより丁寧な関わりを行うことが出来</li> </ul>

	<p>ました。コロナ拡大により他所からの受け入れも難しい環境でしたが、子ども達が不安定にならないように一人ひとりを見つめ肯定的な受け止めを行いました。</p>
<p>《教育》 健康</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの年齢に適した活動や発達を考慮した運動遊びを行うことで、体力や体幹を身につけられるよう進めました。乳児期は発達に応じた動きや運動を体験出来るような活動を取り入れました。</li> <li>・幼児期は様々な運動能力を高めていく活動を取り入れ、意欲的に取り組む姿勢や挑戦する気持ちを持って頑張ろうとする取り組みを大切にしました。その中で年長児は、専門講師による運動遊びを行い、体幹を養うための体操等も取り入れてきました。また、元気なからだ作り計画表に基づきクラス別に基本目標をもって、年間を通して様々な運動遊びを保育に取り入れることに努めました。</li> </ul>
<p>食育活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食に対する興味や関心を高め、楽しい雰囲気の中で好き嫌いなく何でも食べられることを進めました。しっかりと体を動かすことで、食欲が増し、食べる意欲を育ててきました。また季節感が感じられるような食材を提供したり、その食材についての話を聞くことで食べるのが楽しくなるような食事の提供に努めました。</li> <li>・乳児期は安心する雰囲気の中で自分で食べる意欲を大切にしてきました。成長に合った机や椅子を考えたことで落ちついて食事が出来るようになりました。</li> <li>・幼児期は5歳児を中心に姿勢を意識して食事をする事が出来るようになり成長を感じる事が出来ました。日々の声掛けの繰り返しや、体幹を鍛えることで正しい姿勢を知らせながら支援を進めましたが、あまり定着していないため今後も引き続き支援を続けていきます。また、コロナ対応により声掛けを控え静かな食事中心であったため、楽しい食事の雰囲気になりにくかったことが残念でありコロナ終息を願うばかりです。</li> </ul>
<p>人間関係</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特定の大人との深い関わりによる愛着形成を確立し人との繋がりを大切にしました。一人ひとりを認め、前向きな言葉かけや肯定的な関わりを行うことで自己肯定感の確立に努めまし</li> </ul>

環境	<p>た。また、自分で考え行動出来るよう子ども主体の遊びを取り入れ、社会性の確立と自立心の育成に努めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児期は不安な子どもには抱っこなどにより安心を感じられるように努め、幼児期は（5 歳児）自分で考え判断出来るような声掛けや配慮を行いました。安心して生活出来る環境作りを工夫し、職員間で情報交換や連携をとり、子ども一人ひとりが自己を発揮できるよう努めました。</li> <li>・安心、安全に過ごせる環境や社会事象に興味、関心を持ち、好奇心を高める環境の提供に努めました。安心感に守られながら十分な探索活動を経験し、社会や自然事象に興味、関心を持ち視野が広がっていきけるよう努めました。</li> <li>・乳児は行動範囲が広くなり、危険な場面に注意しながら探索行動を見守り、発見に共感しました。</li> <li>・幼児は自然事象に興味、関心をもつよう調べたり試したり出来るような道具を準備できました。また、英語講師による教室は、4.5 歳児で 3 回実施する予定でしたが、コロナの影響で 2 回の実施となっています。内容としては、ゲーム指導や言葉遊びを行い外国語に自然に触れ合えるものを提供しました。異文化に対する感覚への変化を感じておりますが、4 歳児には少々難しい内容だったため、今後は検討が必要と思われま</li> </ul>
言語	<ul style="list-style-type: none"> <li>・喃語時期から語りかけを通して、周りの人との関わりを深め、言葉への獲得へと繋げていきました。言葉でのやり取りが安心して出来るように保育者は聴くことや待つことを心掛け、一人ひとりに適した援助を行うよう努めました。</li> <li>・乳児期の言葉のやりとりに気を付け、言葉の気になる子どもには関係機関と情報共有し連携を取りました。</li> <li>・幼児は遊びや活動の中で言葉を使った遊びを実施することで、子供同士が楽しみながら言葉や文字、数への興味関心を引き出す工夫をしました。講師によるわらべうた遊びでは、繰り返しのリズムの言葉遊びにより温かな雰囲気の中模倣しながら楽しむことが出来ました。コロナ拡大により、わらべうた遊びやおはなし会が後半中止となりましたが、応答的な関わりや言葉での伝え合いを大切に、担任が関わりを深め、無理強いのない声掛けを繰り返し、言葉での伝え合いがスムーズになりま</li> </ul>

表現	<p>した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・乳児期は保育の関わりが重要なため、保育者自身も表現豊かに関わることを心掛け、幼児期は自由に表現出来るよう常に肯定的な関わりを持つよう努めました。リトミック遊びを多く取り入れ身体的表現を自分たちで楽しみました。講師によるアートデーでは、幼児クラスが年3回の実施予定でしたが、コロナの影響で2回の実施となっています。内容は絵画や壁面製作などの活動を取り入れました。五感を刺激する活動を取り入れ、豊かな感性により表現する楽しさを感じることが出来ました。担任は講師との関係が深まり、密な相談もでき、自由な表現が出来るようになりました。リズムを多く取り入れたことで身体全体の感覚刺激となりました。</li> </ul>
----	---

<p>《災害時の備え》</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・避難訓練計画に沿って毎月実施できました。実際に避難指示を想定し、日貫小学校へ避難する訓練を実施しました。協力可能な保護者に電話連絡をし、円滑に避難することが出来ました。実施後にその訓練についての気づきや反省を、職員で共有し次に繋げていきました。備蓄管理もきちんと行えております。</li> </ul>
<p>《特別保育事業》</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援として、関係機関と協力体制をとり支援を進めてきました。個人懇談も随時行い、保護者との信頼関係を築いてきました。</li> </ul>
<p>《その他の行事》</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域行事や年間の恒例行事を計画に沿って行いました。コロナ禍により、夕涼み会は人数制限をして実施しました。運動会は小学校との交流は行わず、保育所単独で実施しました。また、お楽しみ会はコロナが少し落ちついたため祖父母も来ていただき実施しました。全体的にコロナにより行事が中止、縮小となりましたが、地域の方からの誘い等、保育所を気にかけていただくことが多くありました。</li> </ul>

### 3. 人員体制の状況（常勤換算）

職 種	計 画		実 績		差 異	
	正 職	非 正 職	正 職	非 正 職	正 職	非 正 職
所長	1		1			
保育士	2	6 (3.9)	2	6 (4.2)		(+0.3)
保育補助		1 (0.1)		1 (0.1)		
調理員		1 (1.0)		1 (1.0)		
計	3	8 (5.0)	3	8 (5.3)		(+0.3)

令和3年度は、家庭の事情で休まれた契約常勤職員もおりましたが、保育士定数に不足が生じることなく業務に当たることが出来ました。

#### 【人財育成事業】

##### ① 事業所内研修（石見さくら会保育研究会）

実施した研修	対象者	参加者数	実施した内容・成果等
調理担当者研修	栄養士 調理師	1名	・新しいメニューや調理方法など 3保育所で共有しました。
救急法講習会	全職員	4名	・時期に応じた救急の仕方を受講 することができ、日々の保育に役 立てることが出来ました。
防犯訓練	全職員		・コロナの為中止となりました。
感覚統合についての研 修	全職員	3名	・令和4年度5月に学ぶ、グレー ゾーンの子どもたちの対応の研修 の前に、学んでいた方が良いとさ れていた「感覚統合」について、代 表研修を受けた山根係長より学び ました。
保育所児童保育要録研 修	保育士	2名	・幼児教育センターの講師から 保育所児童保育要録の意義につい てや、記入のポイントについて学 びました。
年齢別、主任、調理師の 話し合い（隔月）	担当者	3名	・各園の情報交換を行い、日々の 保育の向上を図ると共に、年間計 画表の見直しも進めてきました。 また研究大会の為の食育プロジェ クトも進めることが出来ました。



② 事業所外研修（外部派遣研修）

実施した研修	対象者	参加者	実施した内容・成果等
邑智郡保育研究会			
・ 邑智郡保育研究会総会 「人間関係の発達と保育実践について」（リモート研修）	全職員	4名	・ 発達段階に応じた子どもとの関わり方を学びました。具体的な内容であったため、すぐに実践に活かすことが出来ました。
・ 研究大会 「子どもの発達とメディア環境」（リモート研修）	全職員	3名	・ 子どもの発達に及ぼすメディア（テレビ、タブレット、スマートフォン等）の影響を学び、保護者へ発信できるように必要な知識を職員間で共有しました。
島根県保育協議会			
・ 中国地区保育研究大会 「育てること」をめぐる思想 「配慮を必要とする子どもへの支援」 「外国にルーツを持つ子どもの受け入れ」	全職員	2名	・ オンライン研修として分科会の中から選択し、受講しました。 ・ 令和5年に開催される全国大会での調理部門の発表があるため、参考として視聴しました。
・ 指導的職員研修Ⅰ	係長	1名	・ チームが取り組むべき課題を明示し、実践していく力、変化にも対応できる即興を身に付ける必要性を学びました。
・ 主任保育士研修 「学びを支える保育環境」（オンライン研修）	主任保育士・保育士	2名	・ 保育環境についての研修で、わかりやすい内容だったため、主任以外の保育士も動画配信にて視聴しました。保育環境の重要性を改めて考えさせられましたので即座に実践していきたいと思います。
・ スキルアップ研修「保育者が知っておきたいアレルギー対応」（オンライン研修）	保育士	2名	・ 島根大医学部小児科の竹谷先生から、アレルギーの基礎的なことや日頃の保育の中で気をつけること、保護者への情報提供について

			学びました。
・県主任・調理師研修会	保育主任 調理師	4名	・上越教育大学大学院 野口孝則氏による「食と保育のつながり」について学び、日々に生かすことができました。(動画配信にて、多くの職員が研修を受けることが出来ました。)
・県施設長研修「コロナ禍の中、保育者の心の健康を保つ」～今、施設長としてできること～(オンライン研修)	所長	1名	・コロナ禍の状況の中での現場状況を確認し、所長として今行うべきことや、今後の対応などを学びました。まだ続くコロナの状況に対応できるようにしていきたいと思えます。
石見養護学校保育士研修会	保育士	2名	・実際に描いた子どもの絵から子どもの心理や状況について学びました。絵を描いていく上でのポイントも学んだので、実践していこうと思えます。
・アレルギー研修	全職員	2名	・アレルギーの為に食事制限などのある子どもの対応について学びました。調理員・保育士のいろいろな立場から学びを深め、実際の保育に役立てています。
邑南町特別支援連携協議会研修会	保育士	1名	・西部島根医療福祉センター 大野貴子医師による「発達障害の正しい理解と支援の考え方について」学びました。

### ③ 事業所間研修

計画上の研修	対象者	参加者	実施した内容・成果等
マネジメント研修	所長 係長	1名 1名	・受講する毎に部下とのフィードバックミーティングに活かすことが出来ました。絶対ルールへの遵守状況も良く、今後も部下へのマネジメントを実施していこうと思えます。

人権・権利擁護研修	全職員	1名	・日々の業務において常に人権に携わっている中で、職員の質の向上を目指し権利侵害としての虐待とその防止について学び、職場環境作りに活かしました。
ハラスメント研修	全職員	1名	・ハラスメントによる正しい認識を未然に防ぐための具体的な方法を学びました。

### 【地域との関係強化への取組み】

実施した事業	事業内容・成果等	KPI	KPI 実績
ボランティアの積極的受入れ	・ボランティア受入れを実施しました。おはなし会や、わらべうたなども行いました。また、園児とともに草取りや畑作りなどを行いました。		予定通り、実施できています。

### 【生産性向上への取組み】

実施した事業	事業内容・成果等	KPI	KPI 実績
ICT化の導入	・ICT化の導入によって、間接業務の時間短縮に取り組みました。登降所の時間管理や個別連絡帳の記載、保護者への緊急連絡など行ってきました。	直接保育業務の時間増加 残業の減少	導入の際、取り掛かりに時間はかかったものの、ICT化について有効活用ができています。

### 【施設整備事業】

実施した施設整備等	実施した内容等
パソコンの更新	・ICT化に伴い、新しく Windows7 から 10 ヘデスクトップ 2 台を更新しました。
「はいチーズ」の導入 業務効率化システム	・生産性の向上を目指して、業務改善に伴う ICT 化システム「はいチーズ」の導入を行いました（補助金対応）。導入にあたってのタブレット 3 台を購入しました。

テラスのスノコ更新	・テラス敷物の老朽化により、防災のものに更新しました。
園児用のロッカー、椅子の座面、テーブルの購入	・園児増に伴い、ロッカー（1つ）、テーブル（1つ）を購入しました。園児の成長や発達に合わせ、椅子座面を購入（7つ）し交換をしました。
絵本、紙芝居の購入 遅番用玩具の購入	・季節や発達に合った絵本（10冊）や紙芝居（24冊）を購入しました。また、子どもの感性や成長を育む玩具を購入しました。
藤棚、植木等の剪定 外フェンス一部移設	・保育所、保育所周辺の環境整備のために実施しました。また、公用車駐車スペース確保のため実施しました。
計画外の施設整備等	実施した内容等
鉄棒の修繕	・点検により修繕が発覚し、鉄棒の修繕、及び塗装を行いました。

### 【積立の状況】

(単位：千円)

積立目的	計画	実績
再建設	0	0
大規模修繕	0	8,700
その他	1,400	1,400
計	1,400	10,100

計画を上回る積立を行うことが出来ました。

### 【感染症・災害への対応への取り組み】

・子ども及び職員の清潔保持に努め、アルコールや次亜塩素酸水を年間通して使用し、感染症予防及び拡大防止を図りました。また幼児にはマスクの着用の依頼をし、無理のないところで安心安全に使用し生活環境を整えました。

・避難計画に基づき毎月避難訓練（火災、地震等）の実施を行いました。想定外の災害発生に対して職員間でマニュアルを確認し合い、非常持ち出し品や備蓄品などの確認を行いました。

#### IV. 苦情解決（要望含む）の結果について

令和3年度において、以下の苦情が寄せられ、解決を図りました。

##### 【苦情1】

- ・発生日：令和3年5月7日
- ・申立者：園児の母親より
- ・苦情内容：登所時、我が子が薬を飲むのを嫌がることについて、職員に家庭で上手く飲むことが出来る方法を伝えたところ、対応した職員が「そのやり方は保育所では難しい。ご飯に混ぜるのは如何なものか・・・」と返答があった。その職員の対応が気に入り、保育所で飲ませてもらう際に大変であろうと思い、良かれと思って家庭で試して良かったことを伝えたのに、言うてはいけなかったのかという嫌な気持ちになった。
- ・処理結果：薬をご飯に混ぜるということは実際は良くないものであるが、子育てが初めてであることや、保育所で困らないようにと思つての発言に対し、保護者を嫌な気持ちにさせてしまった対応でした。お詫びをして納得していただきましたが、今後は、話の聞き方や言葉の掛け方などの対応の仕方を再確認し職員間で周知しました。
- ・第三者委員の関与：解決結果を報告済み

##### 【苦情2】

- ・発生日：令和4年1月7日
- ・申立者：園児の祖母より
- ・苦情内容：土曜日保育を2日希望されていた保護者へ、個人的に付き合いのある職員が「土曜日は月一回ではないのか」と聞いた。一日は歯科受診の為だったが、その言葉により遠慮して祖母に子どもを預け土曜日保育をキャンセルされた。しかし祖母も病弱であるので「何故保育所に預けられないのか」「そう言われると預けられない」と感じられた。その職員は他の要件でも公私混同が感じられるということを経験の気持ちとして話された。
- ・処理結果：申立人の思いをしっかりと聴き、職員の発言や保育所の在り方、公私混同、守秘義務などについての指導が行き届いてなかった為に不安や不信感を与えてしまったことを謝罪いたしました。また土曜日保育は受入れ体制は最初から整えていたことを話し安心して頂き、予定通りお預かりしました。職員には、しっかりと行動を振り返り反省し保育者としての自覚を促しました。この結果を祖母にも伝えると「話をすっきりした」と納得していただきました。

- ・第三者委員の関与：解決結果を報告済み

### 【苦情3】

- ・発生日：令和4年2月28日
- ・申立者：当番の園児の母親より
- ・苦情内容：当番の園児がシール帳を並べる際に、E児のシール帳がないことに気づき、保育士は他の子ども達と探したが見つからなかった。E児の保護者が、保護者同士のSNSで、我が子のシール帳がまぎれていないかを確認される。当番の園児の母親（申立人）はそのSNS連絡を受け、E児のシール帳が無くなったことを知った。翌日には、そのシール帳が保育所の部屋に落ちており、見つけることができたが、その一連の騒動で、保育士が当番の園児に怒った口調で責めたことに対して、母親は「子どもはE児のシール帳をわざと無くしたわけではないのに怒られることなのだろうか、子どもにシール帳の管理責任はないのでは…」と連絡帳に書かれてあった。
- ・処理結果：連絡帳が見つかった日は担任が欠勤だった為、その日対応した職員にその時の様子を確認した上で、保護者に時間を作っていただき、担任がしっかり気持ちを聞かせてもらいました。まず怒ったつもりはないが、その子の思いをしっかり汲んだ丁寧な対応が出来ず、子どもだけでなく保護者にも辛い思いをさせてしまったことを謝罪しました。話をする中でシール帳の管理は当番の仕事として子ども達に任せているが、間違いがないか職員が必ず確認をしていることを伝えました。子どもの持ち物の管理や気持ちを汲んだ対応を心掛けるようにしていくと伝え納得して頂きました。今後は一人ひとりにしっかり寄り添い、より丁寧な対応を日頃からしていかなければならないと職員間で確認しました。
- ・第三者委員の関与：解決結果を報告済み

以上